

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（第1部課程第133期）

千葉県千葉市 西井 雄介

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### 1 はじめに（研修概要）

私は約1か月間にわたって行政に関する法体系を学ぶ「基本法制研修A」と、約3か月にわたって政策形成能力や行政経営能力を学ぶ「第1部課程」の2つの研修を受講しました。どちらの研修も全国の自治体から選りすぐりの職員が集まり、約4か月間を通して寄宿舍に寝泊まりし、他の受講生と寝食を共にしながら勉学に励みます。

### 2 基本法制研修Aについて

基本法制研修Aは、約1か月間をかけて「行政法」「民法」「地方自治制度」「憲法」「地方公務員制度」「財政学」の6科目について、演習等を織り交ぜながら、実践的に通用する応用力をつけるための研修です。

講義はそれぞれの分野の第一人者が担当されており、基本的な内容をなぞるだけではなく、幅広く、かつ深い内容となっています。

また、座学だけではなく、グループでの演習や発表を通して、行政の活動と法令の関係を学ぶことができるようになっています。演習ではグループでの議論についていくために自ら調べ、判例や資料を読み込むことで、より理解が深まりました。この演習は、その後の第1部課程で始まる各種演習のよい準備運動にもなりました。

なお、この研修では効果測定として6科目中3科目で筆記試験、2科目でレポート提出が求められます。1ヶ月の中で講義、演習、効果測定に向けた事前準備を行うこと

はなかなか大変でしたが、良い経験となりました。

### 3 第1部課程第133期について

第1部課程は自治大学校研修の本編となります。法学に特化されていた基本法制研修Aとはガラッと変わり、講義の分野が広がるとともに、行政課題を解決するための企画、立案能力を養うことに主眼を置いた演習が中心のカリキュラムとなります。

演習は、講師養成科目、事例演習、データ分析演習、条例立案演習、ディベート型演習、政策立案演習という複数の異なる性質の演習が組み込まれており、順を追って難易度が上がり、研修生が検討する範囲も広がって行くため、それぞれの科目にしっかり取り組むことにより研修生を成長させてくれるようになっていきます。これだけバラエティーに富んだ演習にじっくり取り組むことができるのはおそらく自治大学校だけであり、第1部課程の真髄は各種演習にあると思います。

特に印象に残っている演習は、事例演習と政策立案演習です。事例演習は、地方公共団体の現場が直面する複数の課題事例をテーマとして問題発見・解決を行う演習であり、各テーマについて各自が現状や課題点をまとめ、対応方法や解決策を討議していくものです。テーマの幅は広く、これまで自分が経験したことのない行政課題に対して、限られた時間の中で自分の考えをまとめて議論しなければならないため、研修生にとっては負荷の高い演習ですが、これを乗り越えることで自治体職員としての基礎能力向上につながるものであると感じました。

政策立案演習は、他の演習科目の総括として、設定した政策課題をテーマに、実際に首長に提言する事を想定して、課題解決のための具体的な政策をグループで立案するものです。この演習はまず5～6名の班決めから始まり、その後演習テーマ確定に向けた企画書作りを行います。企画段階でテーマの絞り込みが甘く、メンバーの方向性がバラバラのまま進むと、3か月近い演習期間の途中で行き詰まり苦勞することとなるため、非常に重要な工程となります。その後は報告書作成に向け、実地調査も行います。私の所属班のテーマは先行事例のない新たな行政課題であったため、設定された実地調査日程に加え、追加の実地調査を2回、自治体向けアンケート調査も1回行いました。報告書は班内で役割分担して執筆していきますが、ページ数は30枚という制限があるため、記載内容のバランスを取り、何が大事で何を伝えたいのか取捨選択する事に苦勞しました。

第1部課程では平行して多くの演習が行われ、それに伴い提出物の締め切りも重なるため、受講生にとっては締め切りに追われる毎日となります。非常に厳しく、苦しい時期もありますが、与えられた時間の中で自ら考え、効率的に成果を出していくことで行政職員として新たな行政課題へ対応する力が練成されていく質の高い研修であると感じました。

#### 4 研修環境や寮生活について

自治大学校の研修が、これまで受講したどの研修とも違うのは、研修生が4か月に渡って寄宿舎生活を送りながら学ぶ点です。同期として学ぶ研修生達とは、共に研修を受講するだけでなく、長期に渡って生活をともにするため、それぞれどのような人間なのかをがしだいに明らかになってきます。私のいた麗澤寮6階フロアには20名の研修

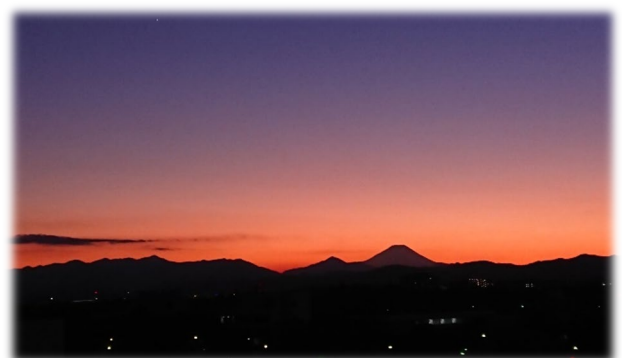
生がいましたが、言語（方言）、生活習慣、食べ物の好み、お酒の飲み方、研修への向き合い方、課題への対応の仕方などなど、ひとりとして同じような人間はおらず、個性的な仲間達との集団生活は刺激的で飽きることがありませんでした。

また、研修期間中は研修生が円滑に学べるよう、教務部や庶務課、教授室など多数の自治大学校のスタッフの方々が学習面、生活面でサポートしていただきます。

#### 5 おわりに

公務員人生も半ばを迎え、今後このような長期に渡って学べる機会は二度とないと思います。台風による被害が癒えない中、私を快く送り出してくれた職場の皆様へ感謝します。また、私は在学中にスポーツでアキレス腱を切ってしまい、このまま受講し続けられるのだろうか、寄宿舎での寮生活は続けられるのだろうか、という不安がありましたが、同期の仲間達や、自治大学校のスタッフの方々のサポートにより、なんとか無事に修了する事ができました。自身にとって本当に忘れられない4か月間となり、素晴らしい仲間やスタッフの皆様には感謝の念に堪えません。

今後はこの研修を通して得た成果を、千葉市に還元すべく、公務に励んでいきたいと考えています。



(自治大学校寄宿舎から撮影)